

安全データシート

1. 製品及び会社情報

製品の名称	ピアスペーブルモルタルバインダー 主剤		
会社名	日米レジン株式会社		
住所	大阪府岸和田市臨海町15		
担当部署	技術部		
電話番号	072 438 0321	FAX番号	072 438 0366
緊急連絡先	技術部(電話番号 072 438 0321)		
整理番号	00381400003A		

2. 危険有害性の要約

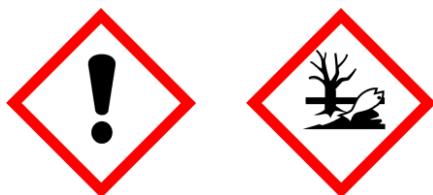
GHS分類

物理化学的危険性	引火性液体	区分外
健康に対する有害性	急性毒性(経口)	分類できない
	急性毒性(経皮)	分類できない
	急性毒性(吸入:ガス)	分類できない
	急性毒性(吸入:蒸気)	分類できない
	急性毒性(吸入:粉塵、ミスト)	分類できない
	皮膚腐食性/刺激性	分類できない
	眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	区分2A
	呼吸器感作性	分類できない
	皮膚感作性	区分1
	生殖細胞変異原性	分類できない
	発がん性	分類できない
	生殖毒性	分類できない
	特定標的臓器/全身毒性(単回暴露)	分類できない
	特定標的臓器/全身毒性(反覆暴露)	分類できない
	吸引性呼吸器有害性	分類できない
環境に対する有害性	水生環境有害性(急性)	区分2
	水生環境有害性(慢性)	区分2
	オゾン層への有害性	分類できない

*上記で記載のない危険有害性は、分類対象外か、分類できない。

GHSラベル要素

シンボル



注意喚起語

警 告

危険・有害性情報

- ・強い眼刺激
- ・アレルギー皮膚反応を起こすおそれ
- ・水生生物に毒性
- ・長期的影響により水生生物に毒性

注意書き

《予防策》

- ・取扱い後は手洗い及びうがいを十分に行うこと。
- ・適切な保護手袋を着用すること。
- ・ミスト、蒸気、スプレーの吸入を避けること。
- ・環境への放出を避けること。

《緊急処置》

- ・皮膚に付着した場合：多量の水と石鹸で洗い落とすこと。汚染された衣類を脱ぎ、再使用する前に洗濯すること。皮膚刺激又は発疹が生じた場合には医師の診断、手当を受けること。
- ・眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合には外すこと。その後の洗浄を続けること。眼の刺激が持続する場合は医師の診断、手当を受けること。
- ・漏出した場合：漏出物を回収すること。

《保管》

- ・涼しく換気のよい場所で、施錠して保管すること。
- ・子供の手の届かないところに保管すること。

《廃棄》

- ・内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の産業廃棄物業者に廃棄を依頼すること。

3. 組成、成分情報

化学物質・混合物の区別：混合物

化学名又は一般名：2液型エポキシ樹脂 主剤

成分及び含有量（危険有害性物質を対象）

化学物質名	含有量 (%)	官報公示整理番号 (化審法・安衛法)	CASNo.
ビスフェノールA型エポキシ樹脂（液状）	85～95	7-1279	1675-54-3
反応性希釈剤	5～15	登録あり	

4. 応急措置

吸入した場合

- ・被災者を直ちに空気の新鮮な場所に移動させ、必要に応じて医師の診断を受ける。

皮膚に付着した場合

- ・付着物を拭き取り、水と石鹸でよく洗う。
- ・皮膚刺激又は発疹が生じた場合は、医師の診察／手当を受ける。

眼に入った場合

- ・水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。眼の刺激が続く場合は、医師の診察／手当を受ける。

飲み込んだ場合

- ・多量の水を飲ませて吐かせる。自発的に嘔吐できる場合は、さらに水を与えて吐かせる。ただし、無理に吐かせようとしてはならない。被災者に意識がない時には何も与えてはならないし、吐かせようとしてもいけない。いずれの場合も、直ちに医師の手当を受ける。

5. 火災時の措置

消火剤

- ・初期火災には、粉末消火剤、二酸化炭素、乾燥砂などを用いる。
- ・大規模火災には、泡消火剤を用いて空気を遮断する。

特定の消火方法

- ・初期の火災には、粉末、炭酸ガス消火器や乾燥砂を用いる。
- ・大規模火災の際には、泡消火剤を用いて空気を遮断することが有効である。
- ・水の使用は火災を拡大し危険な場合がある。

消火を行う者の保護

- ・火災発生場所の周辺への関係者以外の立入りを禁止する。
- ・消火作業の際には有毒なガスを吸い込まないように呼吸器保護具等を着用し風上から消火作業を行う。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、 保護具及び緊急時措置

- ・漏洩した場所の周辺には、ロープを張るなどして人の立入りを禁止し、危険区域での火気使用を禁止する。

- ・風下の人を避難させる。

- ・暴露防止のため、保護具を着用して作業を行う。

- ・蒸気の吸入や皮膚への接触を防止する。

- ・付近の着火源を取り除き、消火機材を準備する。

環境に対する注意事項

- ・流出した製品が河川等に排出され、環境中に影響を起こさないように注意する。

回収、中和、封じ込め及び 浄化方法と機材

- ・乾燥砂、土、その他の不燃性のものに吸収させて密閉できる空容器に回収する。残りは拭き取る。大量の場合には盛り土等で囲って流出を防止する。
- ・回収物、廃棄物などは、関係法規に基づいて処理すること。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

《技術的対策》

- ・火気厳禁 喫煙、裸火、熱又は発火源を避ける。
- ・吸入、眼や皮膚への接触を防ぐため、適切な保護具を使用する。
- ・局所排気装置の設置等、通気の良い作業場所で使用する。
- ・正しい作業実施法を定めて遵守する。
- ・作業場所、休憩所等には、洗顔、洗眼、手洗い等の設備を設置する。

《注意事項》

- ・換気の良い場所で作業する。
- ・取扱い後は顔や手足を良く洗う。
- ・こぼしたり飛散しないようにし、蒸気やミストが発生する場合は局所排気装置を設置する。
- ・強酸、脂肪族アミンと反応するので、十分注意する。
- ・混合バッチスケールが大きくなるに従って発熱温度も高くなるので、十分注意する。

保管

- ・使用済み容器は一定の場所を定めて集積する。
- ・消防法等の関連法規に準拠して保管する。
- ・日光の直射を避け、湿気、火源のない冷暗所に保管する。
- ・盗難防止のため施錠保管する。
- ・子供の手の届かないところに保管する。
- ・混触禁止物質：強酸化剤、強ルイス酸、強無機酸との混触を避ける。

8. 暴露防止及び保護措置

管理濃度	・設定されていない。
許容濃度	・情報なし
設備対策	・局所排気装置、洗顔、洗眼、手洗い場等を設ける。
保護具	
呼吸器の保護具	・有機ガス用防毒マスク
手の保護具	・耐油性の保護手袋（不浸透性）
目の保護具	・保護メガネ（普通眼鏡型、側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型）
皮膚及び身体の保護具	・長袖の衣服を着用し、必要に応じ長靴、耐油性の合成樹脂又は、ゴム製の前掛け、腕カバー等を用いる。

9. 物理的及び化学的性質

外観	・淡黄色透明液状
臭い	・樹脂臭
pH	・データなし
融点・凝固点	・データなし
沸点、初留点及び沸点範囲	・データなし
引火点	・188℃
爆発範囲	・データなし
蒸気圧	・データなし
比重	・1.14（20℃、代表値）
溶解度	・データなし
n-オクタンール／水分配係数	・データなし
自然発火温度	・データなし
分解温度	・データなし
臭いの閾値	・データなし
蒸発速度（酢酸 [®] チル=1）	・データなし

10. 安定性及び反応性

安定性	・通常の手扱いでは安定である。
危険有害反応可能性	・強酸化剤、強ルイス酸、強無機酸、強無機塩基、有機塩基（特に1、2級の脂肪族アミン）と激しく反応する。
避けるべき条件	・高温加熱、混触危険物質との接触
混触危険物質	・強酸化剤、強ルイス酸、強無機酸、強無機塩基、有機塩基（特に1、2級の脂肪族アミン）
危険有害な分解生成物	・アルデヒド、酸、有機物。
その他	・セットの硬化剤（アミン類）と反応する。

1 1. 有害性情報（危険有害性物質を対象）

	急性毒性			
	経口 (LD50)	経皮 (LD50)	吸入 (蒸気) (LC50)	吸入 (粉塵、ミスト)
ビスフェノールA型エポキシ樹脂（液状）	区分外 (22736mg/kg)	区分外 (>23200mg/kg)	分類できない	分類できない
酸化チタン(IV)	区分外 (>5000mg/kg)	分類できない	分類対象外	分類できない

	皮膚腐食性 ／刺激性	眼損傷性 ／眼刺激性	呼吸器感作性	皮膚感作性
ビスフェノールA型エポキシ樹脂（液状）	区分外	区分2 A	分類できない	区分1
酸化チタン(IV)	区分外	区分外	分類できない	分類できない

	生殖細胞変異原性	発がん性	生殖毒性
ビスフェノールA型エポキシ樹脂（液状）	区分外	区分外	区分外
酸化チタン(IV)	分類できない	区分2	分類できない

	特定標的臓器／全身毒性 (単回暴露)	特定標的臓器／全身毒性 (反復暴露)	吸引性呼吸器 有害性
ビスフェノールA型エポキシ樹脂（液状）	分類できない	分類できない	分類できない
酸化チタン(IV)	分類できない	区分1(呼吸器)	分類できない

1 2. 環境影響情報

	水生環境有害性（急性）	水生環境有害性（慢性）
ビスフェノールA型エポキシ樹脂（液状）	区分2	区分2
酸化チタン(IV)	分類できない	分類できない

	生態毒性	残留性・分解性
ビスフェノールA型エポキシ樹脂（液状）	甲殻類（オジシロ） EC50 (48h) 1.7mg/L	急速分解性がない (BODによる分解度0%)
酸化チタン(IV)	情報なし	情報なし

	生物蓄積性	土壌中の移動性	環境基準
ビスフェノールA型エポキシ樹脂（液状）	生物蓄積性が低いもの(BCF≤42)	情報なし	情報なし
酸化チタン(IV)	情報なし	情報なし	情報なし

	オゾン層への有害性		
ビスフェノールA型エポキシ樹脂（液状）	情報なし		
酸化チタン(IV)	情報なし		

1 3. 廃棄上の注意

残余廃棄物

- ・廃棄においては、関連法規ならびに地方自治体の基準に従うこと。
- ・都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。
- ・廃棄物の処理を委託する場合、処理業者等に危険性、有害性を十分告知の上処理を委託する。

汚染容器および包装

- ・容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規ならびに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。
- ・空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去する。

1 4. 輸送上の注意

国際規制

国連番号

・ 3082

国連分類

・ 環境有害物質 (液体)

容器等級

・ クラス 9

陸上輸送

・ III

海上輸送

・ 消防法、労働安全衛生法、毒劇法に該当する場合は、法令の輸送について定めるところに従う。

航空輸送

・ 船舶安全法に定めるところに従う。

特別な安全対策

・ 航空法に定めるところに従う。

・ 取扱い及び保管上の注意の項の一般注意事項に従う。

・ 容器に漏れのない事を確かめ、転倒、落下、損傷がないように積み込み、荷崩れ防止を確実にすること。

・ 火気厳禁、天地無用

1 5. 適用法令

消防法

・ 危険物第四類 第四石油類 危険等級III 指定数量 6000L

労働安全衛生法

・ 変異原性物質 (平成 4 年 2 月 10 日付け基発 51 号)
(ビスフェノール A 型ポキシ樹脂 (液状))

労働基準法

・ 労働災害認定物質 (平成 8 年 3 月 29 日付け基発 181 号)
(ビスフェノール A 型ポキシ樹脂)

毒物及び劇物取締法

・ 該当しない

労働基準法

・ 労働災害認定物質 (平成 8 年 3 月 29 日付け基発 181 号)
(ビスフェノール A 型ポキシ樹脂)

海洋汚染防止法

・ X 類物質 (ビスフェノール A 型ポキシ樹脂 (液状))

化審法

・ 第 2 種監視化学物質 (ビスフェノール A 型ポキシ樹脂 (液状))

1 6. その他の情報

コメント

記載内容は現時点で入手できる資料、データに基づいて作成しておりますが、記載のデータや評価に関しては、いかなる保証をなすものではありません。また、注意事項は通常を取り扱いを対象としたものであって、特別な取り扱いをする場合には用途・用法及び状況に適した安全対策を実施の上、ご利用下さい。

主な参考資料

- 1) 化学物質総合情報提供システム (独) 製品評価技術基盤機構
- 2) 許容濃度の勧告 (2013 年度) 産業衛生学会雑誌
- 3) 既存化学物質安全性点検データ 日本化学物質安全・情報センター
- 4) J I S Z 7252 GHS に基づく化学物質等の分類方法

安全データシート

1. 製品及び会社情報

製品の名称	ピースペーパーモルタルバインダー 硬化剤		
会社名	日米レジン株式会社		
住所	大阪府岸和田市臨海町15		
担当部署	技術部		
電話番号	072 438 0321	FAX番号	072 438 0366
緊急連絡先	技術部 (電話番号 072 438 0321)		
整理番号	00381400003B		

2. 危険有害性の要約

GHS分類

物理化学的危険性	引火性液体	区分外
健康に対する有害性	急性毒性 (経口)	分類できない
	急性毒性 (経皮)	分類できない
	急性毒性 (吸入: ガス)	分類できない
	急性毒性 (吸入: 蒸気)	分類できない
	急性毒性 (吸入: 粉塵、ミスト)	分類できない
	皮膚腐食性/刺激性	区分1B
	眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	区分1
	呼吸器感作性	分類できない
	皮膚感作性	区分1
	生殖細胞変異原性	区分1B
	発がん性	分類できない
	生殖毒性	区分1B
	特定標的臓器/全身毒性 (単回暴露)	区分1 区分2
		区分3
	特定標的臓器/全身毒性 (反覆暴露)	区分2
	吸引性呼吸器有害性	分類できない
環境に対する有害性	水生環境有害性 (急性)	区分3
	水生環境有害性 (慢性)	区分3
	オゾン層への有害性	分類できない

*上記で記載のない危険有害性は、分類対象外か、分類できない。

GHSラベル要素

シンボル



注意喚起語

危険

危険・有害性情報

- ・重篤な皮膚の薬傷・眼の損傷
- ・重篤な眼の損傷
- ・アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ
- ・遺伝子損傷による疾病のおそれ
- ・生殖能または胎児への悪影響のおそれ
- ・臓器（心血管系、肺、腎臓、神経系、呼吸器）の障害
- ・臓器（全身毒性）の障害のおそれ
- ・眠受またはめまいのおそれ
- ・長期にわたるまたは反復暴露による臓器（中枢神経系、肝臓、腎臓、心臓、脾臓、血液系、胸中、甲状腺、消化管）の障害のおそれ
- ・水生生物に毒性
- ・長期的影響により水生生物に毒性

注意書き

《予防策》

- ・取扱い後は手洗い及びうがいを行うこと。
- ・適切な保護手袋を着用すること。
- ・ミスト、蒸気、スプレーの吸入を避けること。
- ・環境への放出を避けること。

《緊急処置》

- ・皮膚に付着した場合：多量の水と石鹸で洗い落とすこと。汚染された衣類を脱ぎ、再使用する前に洗濯すること。皮膚刺激又は発疹が生じた場合には医師の診断、手当てを受けること。
- ・眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合には外すこと。その後の洗浄を続けること。眼の刺激が持続する場合は医師の診断、手当てを受けること。
- ・漏出した場合：漏出物を回収すること。

《保管》

- ・涼しく換気のよい場所で、施錠して保管すること。
- ・子供の手の届かないところに保管すること。

《廃棄》

- ・内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の産業廃棄物業者に廃棄を依頼すること

3. 組成、成分情報

化学物質・混合物の区別：混合物

化学名又は一般名：2液型エポキシ樹脂 硬化剤

成分及び含有量（危険有害性物質を対象）

化学物質名	含有量 (%)	官報公示整理番号 (化審法・安衛法)	CASNo.
変性脂肪族ポリアミン	60～70	登録あり	
フェノール	1.6	3-481	108-95-2
メタキシリレンジアミン	1～8	3-308	1477-55-0

4. 応急措置

- | | |
|-----------|--|
| 吸入した場合 | ・被災者を直ちに空気の新鮮な場所に移動させ、必要に応じて医師の診断を受ける。 |
| 皮膚に付着した場合 | ・付着物を拭き取り、水と石鹸でよく洗う。 |
| 眼に入った場合 | ・皮膚刺激又は発疹が生じた場合は、医師の診察／手当を受けること。 |
| 飲み込んだ場合 | ・水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。眼の刺激が続く場合は、医師の診察／手当を受ける。 |
| | ・多量の水を飲ませて吐かせる。自発的に嘔吐できる場合は、さらに水を与えて吐かせる。ただし、無理に吐かせようとしてはならない。被災者に意識がない時には何も与えてはならないし、吐かせようとしてもいけない。いずれの場合も、直ちに医師の手当てを受ける。 |

5. 火災時の措置

- | | |
|-----------|---|
| 消火剤 | ・初期火災には、粉末消火剤、二酸化炭素、乾燥砂などを用いる。 |
| 特定の消火方法 | ・大規模火災には、泡消火剤を用いて空気を遮断する。 |
| 消火を行う者の保護 | ・初期の火災には、粉末、炭酸ガス消火器や乾燥砂を用いる。 |
| | ・大規模火災の際には、泡消火剤を用いて空気を遮断することが有効である。 |
| | ・水の使用は火災を拡大し危険な場合がある。 |
| | ・火災発生場所の周辺への関係者以外の立入りを禁止する。 |
| | ・消火作業の際には有毒なガスを吸い込まないように呼吸器保護具等を着用し風上から消火作業を行う。 |

6. 漏出時の措置

- | | |
|---------------------------|--|
| 人体に対する注意事項、
保護具及び緊急時措置 | ・漏洩した場所の周辺には、ロープを張るなどして人の立入りを禁止し、危険区域での火気使用を禁止する。 |
| 環境に対する注意事項 | ・風下の人を避難させる。 |
| 回収、中和、封じ込め及び
浄化方法と機材 | ・暴露防止のため、保護具を着用して作業を行う。 |
| | ・蒸気の吸入や皮膚への接触を防止する。 |
| | ・付近の着火源を取り除き、消火機材を準備する。 |
| | ・流出した製品が河川等に排出され、環境中に影響を起こさないように注意する。 |
| | ・乾燥砂、土、その他の不燃性のものに吸収させて密閉できる空容器に回収する。残りは拭き取る。大量の場合には盛り土等で囲って流出を防止する。 |
| | ・回収物、廃棄物などは、関係法規に基づいて処理すること。 |

7. 取扱い及び保管上の注意

- | | |
|-----|--|
| 取扱い | 《技術的対策》 |
| | ・火気厳禁 喫煙、裸火、熱又は発火源を避ける。 |
| | ・吸入、眼や皮膚への接触を防ぐため、適切な保護具を使用する。 |
| | ・局所排気装置の設置等、通気の良い作業場所を使用する。 |
| | ・正しい作業実施法を定めて遵守する。 |
| | ・作業場所、休憩所等には、洗顔、洗眼、手洗い等の設備を設置する。 |
| | 《注意事項》 |
| | ・換気の良い場所で作業する。 |
| | ・取扱い後は顔や手足を良く洗う。 |
| | ・こぼしたり飛散しないようにし、蒸気やミストが発生する場合は局所排気装置を設置する。 |
| | ・強酸、エポキシ樹脂と反応するので、十分注意する。 |
| | ・混合バッチスケールが大きくなるに従って発熱温度も高くなるので、十分注意する。 |
| | ・使用済み容器は一定の場所を定めて集積する。 |

保管

- ・消防法等の関連法規に準拠して保管する。
- ・日光の直射を避け、湿気、火源のない冷暗所に保管する。
- ・盗難防止のため施錠保管する。
- ・子供の手の届かないところに保管する。
- ・混触禁止物質：強酸化剤、強ルイス酸、強無機酸との混触を避ける。

8. 暴露防止及び保護措置

管理濃度

- ・設定されていない

許容濃度

日本産業衛生学会
(2008 年度版)

- ・フェノール 5ppm 19mg/m³ 皮膚吸収性

ACGIH (2007 年度版)

- ・フェノール TLV-TWA 5ppm 皮膚吸収性
- ・メタキシレンジアミン TLV-STEL 0.1mg/m³ 皮膚吸収性
- ・局所排気装置、洗顔、洗眼、手洗い場等を設ける。

設備対策

保護具

呼吸器の保護具

- ・有機ガス用防毒マスク

手の保護具

- ・耐油性の保護手袋（不浸透性）

目の保護具

- ・保護メガネ（普通眼鏡型、側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型）

皮膚及び身体の保護具

- ・長袖の衣服を着用し、必要に応じ長靴、耐油性の合成樹脂又は、ゴム製の前掛け、腕カバー等を用いる。

9. 物理的及び化学的性質

外観

- ・褐色透明液状

臭い

- ・アミン臭

pH

- ・データなし

融点・凝固点

- ・データなし

沸点、初留点及び沸点範囲

- ・データなし

引火点

- ・150℃

爆発範囲

- ・データなし

蒸気圧

- ・データなし

比重

- ・1.05 (20℃、代表値)

溶解度

- ・データなし

n-オクタノール／水分配係数

- ・データなし

自然発火温度

- ・データなし

分解温度

- ・データなし

臭いの閾値

- ・データなし

蒸発速度（酢酸ブチル=1）

- ・データなし

10. 安定性及び反応性

安定性

- ・通常の手扱いでは安定である。

危険有害反応可能性

- ・強酸化剤、強ルイス酸、強無機酸、強無機塩基と激しく反応する。

避けるべき条件

- ・高温加熱、混触危険物質との接触

混触危険物質

- ・強酸化剤、強ルイス酸、強無機酸、強無機塩基

危険有害な分解生成物

- ・アルデヒド、アンモニア、窒素酸化物。

その他

- ・セットの主剤（エポキシ樹脂）と反応する。

1 1. 有害性情報 (危険有害性物質を対象)

	急性毒性			
	経口 (LD50)	経皮 (LD50)	吸入 (蒸気) (LC50)	吸入 (粉塵、ミスト) (LC50)
変性脂肪族ポ°リアミン	分類できない	分類できない	分類できない	分類できない
フェノール	区分4 (375 mg/kg)	区分3 (670 mg/kg)	分類できない	分類できない
メタ°キシリレンジ°アミン	区分4 (1180mg/kg)	区分4 (2000 mg/kg)	分類できない	区分3 (0.8mg/L)

	皮膚腐食性 ／刺激性	眼損傷性 ／眼刺激性	呼吸器感作性	皮膚感作性
変性脂肪族ポ°リアミン	区分1	区分1	分類できない	区分1
フェノール	区分1 A－1 C	区分1	分類できない	分類できない
メタ°キシリレンジ°アミン	区分1	区分1	分類できない	区分1

	生殖細胞変異原生	発がん性	生殖毒性
変性脂肪族ポ°リアミン	分類できない	分類できない	分類できない
フェノール	区分1 B	分類できない	区分1 B
メタ°キシリレンジ°アミン	区分外	分類できない	分類できない

	特定標的臓器／全身毒性 (単回暴露)	特定標的臓器／全身毒性 (反復暴露)	吸引性呼吸器 有害性
変性脂肪族ポ°リアミン	分類できない	分類できない	分類できない
フェノール	区分1 (呼吸器、心血管系、 腎臓、神経系)	区分1 (心血管系、肝臓、 消化管、血液系、腎臓、脾 臓、胸腺、中枢神経系)	分類できない
メタ°キシリレンジ°アミン	区分1 (肺) 区分2 (全身毒性)	分類できない	分類できない

1 2. 環境影響情報

	水生環境有害性 (急性)	水生環境有害性 (慢性)
変性脂肪族ポ°リアミン	情報なし	情報なし
フェノール	区分2	区分3
メタ°キシリレンジ°アミン	区分3	区分3

	生態毒性	残留性・分解性
変性脂肪族ポ°リアミン	情報なし	情報なし
フェノール	甲殻類 (セミジ°ンコ属) EC50 (48 h) 3.1mg/L	急速分解性がある (BOD による分解度 85%)
メタ°キシリレンジ°アミン	藻類 (セネ°スス) ErC50 (72 h) 4mg/L	急速分解性がない (BOD による分解度 22%)

	生物蓄積性	土壌中の移動性	環境基準
変性脂肪族ポ°リアミン	情報なし	情報なし	情報なし
フェノール	生物蓄積性が低いと推定 (log kow=1.46)	情報なし	情報なし
メタ°キシリレンジ°アミン	生物蓄積性が低いもの (BCF<2.7)	情報なし	情報なし

	オゾン層への有害性		
フェノール	情報なし		
メタキシレンジアミン	情報なし		

1.3. 廃棄上の注意

残余廃棄物

- ・廃棄においては、関連法規ならびに地方自治体の基準に従うこと。
- ・都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。
- ・廃棄物の処理を委託する場合、処理業者等に危険性、有害性を十分告知の上処理を委託する。

汚染容器および包装

- ・容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規ならびに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。
- ・空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去する。

1.4. 輸送上の注意

国際規制

国連番号

- ・2735

品 名

- ・ポリアミン類（液体）（腐食性のもの）

国連分類

- ・クラス8（腐食性物質）

容器等級

- ・III

陸上輸送

- ・消防法、労働安全衛生法、毒劇法に該当する場合は、法令の輸送について定めるところに従う。

海上輸送

- ・船舶安全法に定めるところに従う。

航空輸送

- ・航空法に定めるところに従う。

特別な安全対策

- ・取扱い及び保管上の注意の項の一般注意事項に従う。
- ・容器に漏れのない事を確かめ、転倒、落下、損傷がないように積み込み、荷崩れ防止を確実にすること。
- ・火気厳禁、天地無用

1.5. 適用法令

消防法

- ・危険物第四類 第三石油類 危険等級III 指定数量2000L

労働安全衛生法

- ・名称等を表示すべき有害物（法第57条の1、施行令第18条）
（フェノール）
- ・名称等を通知すべき有害物（法第57条の2、施行令第18条の2別表第9）
（フェノール、メタキシレンジアミン）
- ・労働省通達基発477号による表示物質（変性脂肪族ポリアミン）

化学物質排出管理促進法

- ・第1種指定化学物質
（フェノール：2.1%、ビスフェノールA：20%）

毒物及び劇物取締法

- ・該当しない

化審法

- ・優先評価化学物質（フェノール、ビスフェノールA）

1.6. その他の情報

コメント

記載内容は現時点で入手できる資料、データに基づいて作成しておりますが、記載のデータや評価に関しては、いかなる保証をなすものではありません。また、注意事項は通常の取り扱いを対象としたものであって、特別な取り扱いをする場合には用途・用法及び状況に適した安全対策を実施の上、ご利用下さい。

主な参考資料

- 1) 化学物質総合情報提供システム （独）製品評価技術基盤機構
- 2) 許容濃度の勧告（2013年度） 産業衛生学会雑誌
- 3) 既存化学物質安全性点検データ 日本化学物質安全・情報センター
- 4) J I S Z 7 2 5 2 GHSに基づく化学物質等の分類方法

安全データシート

1. 製品及び会社情報

製品の名称	ピアスペーブモルタル 骨材		
会社名	日米レジン株式会社		
住所	大阪府岸和田市臨海町15		
担当部署	技術部		
電話番号	072 438 0321	FAX番号	072 438 0366
緊急連絡先	技術部(電話番号 072 438 0321)		
整理番号	00381400002C		

2. 危険有害性の要約

GHS分類

健康に対する有害性	急性毒性(経口)	分類できない
	急性毒性(経皮)	分類できない
	急性毒性(吸入:ガス)	分類できない
	急性毒性(吸入:蒸気)	分類できない
	急性毒性(吸入:粉塵、ミスト)	分類できない
	皮膚腐食性/刺激性	分類できない
	眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	分類できない
	呼吸器感作性	分類できない
	皮膚感作性	分類できない
	生殖細胞変異原性	分類できない
	発がん性	区分1
	生殖毒性	分類できない
	特定標的臓器/全身毒性(単回暴露)	区分2
	特定標的臓器/全身毒性(反覆暴露)	区分2
	吸引性呼吸器有害性	分類できない
	環境に対する有害性	水生環境有害性(急性)
水生環境有害性(慢性)		分類できない
オゾン層への有害性		分類できない
*上記で記載のない危険有害性は、分類対象外か、分類できない。		

GHSラベル要素

絵表示



注意喚起語

危険

危険・有害性情報

- ・発がんのおそれ
- ・呼吸器系の障害のおそれ
- ・長期または反復暴露による呼吸器系、腎臓の障害のおそれ

注意書き

- 粉塵を長時間にわたり吸入し続けるとじん肺になるおそれがあるので注意すること。
- ・粉塵、を吸入しないこと。
 - ・必要に応じて個人用保護具や換気装置を使用し、暴露を避けること。
 - ・取扱い後は良く手を洗うこと。
 - ・内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の産業廃棄物業者に廃棄を依頼すること。

3. 組成、成分情報

化学物質・混合物の区別：単一製品

化学名又は一般名：スピネル・フォルステライト結晶物

成分及び含有量

成分名	含有量 (%)	CASNo.
酸化アルミニウム	30	1344-28-1
酸化マグネシウム	25	1309-48-4
酸化カルシウム	6	1305-78-8
酸化クロム	5	1308-38-9
結晶質シリカ	2	14808-60-7
酸化鉄	1	1345-25-1

4. 応急措置

吸入した場合

- ・被災者を空気の新鮮な場所に移動させ、必要に応じて医師の診断を受ける。

皮膚に付着した場合

- ・付着物を拭き取り、水と石鹸でよく洗う。
- ・皮膚刺激又は発疹が生じた場合は、医師の診察／手当を受ける。

眼に入った場合

- ・水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。眼の刺激が続く場合は、医師の診察／手当を受ける。

飲み込んだ場合

- ・口をすすぐこと。
- ・気分が悪いときは、医師の診断／手当てを受けること。

5. 火災時の措置

- ・不燃物である。包装等が燃えた場合は一般的な消火方法でよい。
- ・周辺火災に応じて適切な消火剤を用いる。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、
保護具及び緊急時措置

- ・滑りやすいので要注意。
- ・作業の際には適切な保護具（保護マスク、手袋、前掛け、保護眼鏡等）を着用する。

回収、中和、封じ込め及び
浄化方法と機材

- ・発塵に注意しながらすくい取り、真空掃除機で回収する。
- ・回収物、廃棄物などは、関係法規に基づいて処理する。
- ・床面に残ると滑る危険性があるので、こまめに処理する。

二次災害の防止

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

《技術的対策》

- ・粉塵の発生、皮膚及び粘膜への接触に留意し、必要に応じて防塵マスク、保護眼鏡、手袋等の適切な保護具を着用する。
- ・作業場所、休憩所等には、洗顔、洗眼、手洗い等の設備を設置する。

《注意事項》

- ・換気の良い場所で作業する。
- ・取扱い後は顔や手足を良く洗う。
- ・湿気厳禁
- ・日光の直射を避け、湿気、火源のない冷暗所に保管する。

保管

8. 暴露防止及び保護措置

8. 暴露防止及び保護措置

管理濃度・許容濃度

成分名	管理濃度	許容濃度	
		日本産衛学会 (2013年版)	ACGIH (TLV-TWA) (2005年版)
吸入性結晶質シリカ	設定されていない	0.03mg/m ³	0.025mg/m ³
3価クロム化合物	0.05mg/m ³ (Cr)	0.05mg/m ³ (Cr)	0.05mg/m ³ (Cr)

設備対策

- ・局所排気装置、洗眼器、手洗い場、安全シャワーを設ける。

保護具

呼吸器の保護具

- ・防塵マスク

手の保護具

- ・手袋

目の保護具

- ・保護メガネ（普通眼鏡型、側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型）

皮膚及び身体の保護具

- ・長袖の衣服を着用し、必要に応じ長靴、前掛け、腕カバー等を用いる。

9. 物理的及び化学的性質

外観

- ・黒色砂粒状

臭い

- ・なし

pH

- ・該当しない

融点・凝固点

- ・1700℃～1800℃

沸点、初留点及び沸点範囲

- ・データなし

引火点

- ・該当しない。

爆発範囲

- ・該当しない

蒸気圧

- ・データなし

比重

- ・3.1（真比重） 1.9（笠比重）

溶解度

- ・水に不溶

n-オクタノール／水分配係数

- ・該当しない

自然発火温度

- ・データなし

分解温度

- ・データなし

臭いの閾値

- ・データなし

蒸発速度（酢酸γチル=1）

- ・該当しない

10. 安定性及び反応性

安定性

- ・通常の実験においては安定である。
- ・水には不溶解である。

反応性

- ・強酸、強アルカリと反応し溶解する。

避けるべき条件

- ・粉塵の拡散

1 1. 有害性情報

製品としての健康への影響については試験されていない。

目に入った場合、刺激がある。角膜炎、結膜炎を生ずるおそれがある。また、眼球、粘膜を損傷するおそれがある

繰り返し皮膚に触れると肌荒れを起こすおそれがある。

吸入した場合、呼吸器官を刺激する。

飲み込んだ場合、腹痛、吐き気等を起こすおそれがある

対象物	急性毒性			
	経口 (LD50)	経皮 (LD50)	吸入 (蒸気) (LC50)	吸入 (粉塵、ミスト)
結晶質シリカ	分類できない	分類できない	分類できない	分類できない

	皮膚腐食性 ／刺激性	眼損傷性 ／眼刺激性	呼吸器感作性	皮膚感作性
結晶質シリカ	分類できない	分類できない	分類できない	分類できない

	生殖細胞変異原性	発がん性	生殖毒性
結晶質シリカ	分類できない	区分 1 A (IRCA グループ 1)	分類できない

	特定標的臓器／全身毒性 (単回暴露)	特定標的臓器／全身毒性 (反復暴露)	吸引性呼吸器 有害性
結晶質シリカ	区分 1 (呼吸器系)	区分 1 (呼吸器系、腎臓)	分類できない

1 2. 環境影響情報

水生環境急性有害物 ・ 分類できない

水生環境慢性有害物 ・ 分類できない

1 3. 廃棄上の注意

残余廃棄物

- ・ 廃棄においては、関連法規ならびに地方自治体の基準に従うこと。
- ・ 都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。
- ・ 廃棄物の処理を委託する場合、処理業者等に危険性、有害性を十分告知の上処理を委託する。

汚染容器および包装

- ・ 容器・包装は清浄にしてリサイクルするか、関連法規ならびに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。
- ・ 空容器・包装を廃棄する場合は、内容物を完全に除去する。

1 4. 輸送上の注意

国際規制

国連番号

- ・ 該当しない

国連分類

- ・ なし

容器等級

- ・ なし

陸上輸送

- ・ 非危険物

海上輸送

- ・ 非危険物

航空輸送

- ・ 非危険物

特別な安全対策

- ・ 取扱い及び保管上の注意の項の一般注意事項に従う。
- ・ 包装に破れのないことを確かめ、転倒、落下、損傷がないように積み込み、荷崩れ防止を確実にすること。

15. 適用法令

労働安全衛生法

- ・名称等を表示すべき有害物（法第57条の1、施行令第18条の1別表第9）
（珪素及びその化合物、酸化鉄、シリカ）
- ・名称等を通知すべき有害物（法第57条の2、施行令第18条の2別表第9）
（珪素及びその化合物、酸化鉄、シリカ）

化管法（PRTR法）

- ・第1種指定化学物質（珪素及び三価珪素化合物：3.4%（珪素として））

16. その他の情報

コメント

記載内容は現時点で入手できる資料、データに基づいて作成しておりますが、記載のデータや評価に関しては、いかなる保証をなすものではありません。また、注意事項は通常取り扱いを対象としたものであって、特別な取り扱いをする場合には用途・用法及び状況に適した安全対策を実施の上、ご利用下さい。

主な参考資料

- | | |
|--------------------|-------------------|
| 1) 化学物質総合情報提供システム | (独) 製品評価技術基盤機構 |
| 2) GHS危険有害性分類事業 | GHS関係省庁連絡会議事業18年度 |
| 3) 許容濃度の勧告(2008年度) | 産業衛生学会雑誌 |
| 4) 既存化学物質安全性点検データ | 日本化学物質安全・情報センター |